

(講座) 臨床薬学
(氏名) 中嶋幹郎

(研究室) 病院薬学
(職名) 教授

【研究テーマ】

1. 医薬品の適正使用に関する研究
2. 臨床での調剤・医療コミュニケーションを基盤とする実学研究
3. 薬物治療・薬物動態の最適化に関する基礎的および臨床薬学的研究
4. 薬効・副作用に関するスクリーニング法の開発

【発表論文】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. K. Kawazu, A. Oshita, T. Nakamura, M. Nakashima, N. Ichikawa, H. Sasaki: Transport of acebutolol through rabbit corneal epithelium, *Biol. Pharm. Bull.*, 29, 846-849 (2006). (IF: 1.317)
2. M. Teshima, S. Kawakami, S. Fumoto, k. Nishida, J. Nakamura, M. Nakashima, H. Nakagawa, N. Ichikawa, H. Sasaki: PEGylated liposomes loading palmitoyl prednisolone for prolonged blood concentration of prednisolone, *Biol. Pharm. Bull.*, 29, 1436-1440 (2006). (IF: 1.317)
3. Y. Tada, T. Kitahara, T. Yoshioka, T. Nakamura, N. Ichikawa, M. Nakashima, K. Nishida, J. Nakamura, H. Sasaki: Partial hepatectomy enhances polyethylenimine-mediated plasmid DNA delivery, *Biol. Pharm. Bull.*, 29, 1712-1716 (2006). (IF: 1.317)
4. J. Nakamura, S. Fumoto, K. Shoji, Y. Kodama, J. Nishi, M. Nakashima, H. Sasaki, K. Nishida: Stomach-selective gene transfer following the administration of naked plasmid DNA onto the gastric serosal surface in mice, *Biol. Pharm. Bull.*, 29, 2082-2086 (2006). (IF: 1.317)
5. K. Sakanaka, K. Kawazu, K. Nishida, J. Nakamura, M. Nakashima, T. Nakamura, A. Oshita, N. Ichikawa, H. Sasaki: Transport of timolol and tilisolol in rabbit corneal epithelium, *Biol. Pharm. Bull.*, 29, 2143-2147 (2006). (IF: 1.317)
6. T. Kitahara, Y. Aoyama, Y. Hirakata, S. Kamihira, S. Kohno, N. Ichikawa, M. Nakashima, H. Sasaki, S. Higuchi: In vitro activity of lauric acid or myristylamine in combination with six antimicrobial agents against methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA), *Int. J. Antimicrob. Agents*, 27, 51-57 (2006). (IF: 2.428)
7. H. Sasaki, S. Yoshida, T. Kitahara, T. Yoshioka, H. Nakagawa, T. Nakamura, N. Ichikawa, K. Nishida, J. Nakamura, M. Nakashima: Influence of disease stage on polyethylenimine-mediated plasmid DNA delivery in murine hepatitis, *Int. J. Pharm.*, 318, 139-145 (2006). (IF: 2.156)

8. M. Teshima, S. Fumoto, K. Nishida, J. Nakamura, K. Ohya, T. Nakamura, N. Ichikawa, M. Nakashima, H. Sasaki, Prolonged blood concentration of prednisolone after intravenous injection of liposomal palmitoyl prednisolone, *J. Control Release*, 112, 320-328 (2006). (IF: 3.696)

B 邦文

(B-a) 原著論文

1. 濱本知之、吉田昇平、濱田久男、能勢誠一、中嶋幹郎、一川暢宏、佐々木均：心臓血管外科病棟におけるワルファリンとその併用薬の使用状況に関する調査、*日本病院薬剤師会雑誌*、42、655-658 (2006)。
2. 嶺 豊春、北原隆志、吉居廣朗、能勢誠一、大石和徳、中嶋幹郎、柳原克紀、一川暢宏、佐々木均：超酸性水の使用状況および各種保存条件下における安定性、*日本病院薬剤師会雑誌*、42、1303-1306 (2006)。
3. 藤下 修、古閑健二郎、一川暢宏、中嶋幹郎、佐々木均：日本薬局方における点眼剤の規定の矛盾点、*医療薬学*、32、813-815 (2006)。
4. 江頭かの子、北原隆志、柏木 香、樋口則英、中嶋幹郎、一川暢宏、佐々木均：長崎大学医学部・歯学部附属病院における整腸剤適正使用への取り組み、*薬学雑誌*、126、1155-1161 (2006)。

【学会発表】

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. H. Sasaki, M. Teshima, N. Ichikawa, M. Nakashima, K. Nishida, J. Nakamura: Reticuloendothelial delivery or prolonged blood concentration of prednisolone after intravenous injection of liposomal prednisolone. The 3rd Korea-Japan Joint Symposium on Drug Delivery and Therapy. Seoul, Korea, April 2006.
2. M. Uematsu, M. Teshima, M. Nakashima, H. Sasaki, K. Yamada, K. Mishima, T. Kitaoka: Usefulness of carbonic anhydrase inhibitors as new agents for visualization of vitreous bodies. 2006 ARVO Annual Meeting. Fort Lauderdale, Florida, USA, April 2006.

B 国内学会

(B-a) 招待講演

1. 中嶋幹郎: 薬局実務実習の現状とこれからの展望－教育者としての薬局薬剤師への期待－、第69回九州山口薬学大会、平成18年9月、鹿児島

(B-b) 一般講演

1. 西田孝洋、津田佳代子、本田富得、川上明夏、中嶋幹郎、佐々木均、中村純

三：肝臓ターゲティングを目的とした表面投与法の開発－肝臓表面からの薬物吸収動態に及ぼす病態や肝切除の影響－、日本薬剤学会第21年会、平成18年3月、金沢

2. 山内浩子、茅田勇巳、一川暢宏、藤 秀人、佐々木均、中嶋幹郎、西田孝洋、中村純三：肝再生の遺伝子デリバリーに対する影響－肝切除マウスにおけるpolyethyleneimine/pDNA複合体の遺伝子発現、日本薬学会第126年会、平成18年3月、仙台
3. 川上 恵、中嶋幹郎、北原隆志、一川暢宏、西田孝洋、中村純三、谷山紘太郎、北岡 隆、佐々木均：抗アレルギー点眼薬の角膜上皮バリアーに対する影響、日本薬学会第126年会、平成18年3月、仙台
4. 佐々木均、山内浩子、茅田勇巳、一川暢宏、藤 秀人、中嶋幹郎、西田孝洋、中村純三：Polyethylenimine を用いた遺伝子デリバリーへの病態の影響－四塩化炭素誘発肝障害マウスにおける検討－、日本薬学会第126年会、平成18年3月、仙台
5. 手嶋無限、川上 茂、西田孝洋、中村純三、一川暢宏、中嶋幹郎、佐々木均：プレドニゾロンの誘導体およびリポソーム製剤を組み合わせた薬物体内動態制御、日本薬学会第126年会、平成18年3月、仙台
6. 中嶋幹郎、荒木良介、湯川栄二、福地弘充、北原隆志、一川暢宏、小宮憲洋、早野元信、早野元信、矢野捷介、佐々木均：アミオダロンの母集団薬物動態解析－最低血中濃度データ値による検討－、日本薬学会第126年会、平成18年3月、仙台
7. 相葉啓子、中嶋幹郎、梶原彩子、北原隆志、一川暢宏、佐々木均：バルプロ酸ナトリウムとカルバペネム系抗生物質の相互作用に関する調査研究－併用時におけるTDMの有用性－、日本薬学会第126年会、平成18年3月、仙台
8. 荒木良介、中嶋幹郎、湯川栄二、福地弘充、一川暢宏、小宮憲洋、早野元信、矢野捷介、佐々木均：アミオダロンの母集団薬物動態解析－クリアランスに影響を及ぼす肥満の影響－、第23回日本TDM学会学術大会、平成18年7月、東京
9. 中嶋幹郎、川上 恵、西田孝洋、中村純三、谷山紘太郎、北岡 隆、一川暢宏、佐々木均：点眼薬の角膜上皮バリアーに対する影響－新しい評価システムによる検討－、第16回日本医療薬学会年会、平成18年9月、金沢
10. 西 順也、中島由希子、西田孝洋、麓伸太郎、中嶋幹郎、佐々木均、中村純三：マーカー物質の透過性を指標とした腹膜肥厚の評価法、第16回日本医療薬学会年会、平成18年9月、金沢
11. 西田孝洋、西 順也、麓伸太郎、中嶋幹郎、佐々木均、中村純三：臓器選択的な消失過程の阻害に基づく新規DDSの開発、第21回日本薬物動態学会年会、平成18年11月、東京
12. 中村純三、麓伸太郎、土持真由美、兒玉幸修、西 順也、中嶋幹郎、佐々木均、西田孝洋：Plasmid DNAの肝臓表面への微量持続滴下による肝臓内部

- 位特異的遺伝子導入、第21回日本薬物動態学会年会、平成18年11月、東京
13. 三宅秀明、西田孝洋、麓伸太郎、中嶋幹郎、佐々木均、柴田敏之、中村純三：肝灌流実験による低体温療法時の薬物動態変動の解明、第23回日本薬学会九州支部大会、平成18年12月、熊本
 14. 木下真理子、西田孝洋、兒玉幸修、麓伸太郎、中嶋幹郎、佐々木均、中村純三：肝臓への投与形態に応じた効果的な製剤設計に関する薬物動態学的検討、第23回日本薬学会九州支部大会、平成18年12月、熊本
 15. 山下千恵、田代浩幸、川原利春、永田修一、中村 博、大脇裕一、西田孝洋、中村純三、中嶋幹郎：新様式の処方せん導入による後発医薬品の利用状況の変化、第23回日本薬学会九州支部大会、平成18年12月、熊本

【学会役員等】

1. 日本医療薬学会評議員
2. 日本 TDM 学会評議員

【過去の研究業績総数】

原著論文	(欧文)	63 編	(邦文)	26 編
総説	(欧文)	1 編	(邦文)	3 編
著書	(欧文)	1 編	(邦文)	7 編
紀要・その他	(欧文)	1 編	(邦文)	21 編